

iCraft レースレポート

スーパー耐久シリーズ 2021 Powered by Hankook 第4戦

「TKU スーパー耐久レース in オートポリス」

7月31日～8月1日 オートポリス（大分県）

予選：晴れ/ドライ 入場者数：2,773人

決勝：曇り、霧のち晴れ/セミウェット～ドライ 入場者数：3,732人表

TRES☆TiR☆NATS ロードスター（マツダロードスター ND5RC）

金井亮忠/猪爪杏奈/岡原達也

予選 2番手から一時トップも走行。勝つためのギャンブルに敗れるも、4位獲得

2シーズン目のスーパー耐久シリーズに挑む iCraft（猪爪俊之：監督）は、激戦区として知られる ST-5 クラスに、マツダロードスター「TRES☆TiR☆NATS ロードスター」で参戦。日本自動車大学校（NATS）の支援を受け、学生たちがマシンを製作し、メカニックを担当するのも従来どおりである。

前回の「富士 24 時間」では、序盤に一時トップを走行。その後も安定したペースで周回を重ねていたが、3番手を走行していた 10 時間経過後にエンジンのベルトが切れて、リペアエリアに送り込まれてしまう。それでもドライバーの機転とチームの好判断が功を奏し、短時間でピットに戻ることに成功。優勝戦線からは脱落し、また 7 位という結果を残すに留まったものの、ドライバー、チームとも最大の目標としていたノミス、ノートラブルであったことで、非常に達成感を得られた一戦ともなった。

今回から新スポンサーである、「株式会社トレス」のイメージカラーでマシンは彩られることとなり、イメージは大幅に一新。そのマシンで昨年、2 位でゴールして初めて表彰台に上がったオートポリスで、いちばん高いところを目指す。今回はドライバー 3 人体制で、金井亮忠と猪爪杏奈、岡原達也での参戦となる。



公式予選

今回の練習開始は木曜日。昨年のデータがあるものの、冬から夏へと季節が変わっていることから、まずはコンディションの違いに対する、セッティングの合わせ込みが行われた。その後、スピードレンジを徐々に上げていくこととなる。

セッションごとコンディションに違いがあったり、グループ 2 単独のセッションもあれば、グループ 1 との混走のセッションもあったりして、状況はそれぞれ異なるにせよ、チームベストは金曜日午前のセッションで金井が記した 2 分 12 秒 733、これは予選に向けての大きな期待材料となっていた。

そして、いよいよ迎えた予選は、土曜日の 13 時 35 分開始とあって太陽が真上に上がり、暑さが猛烈に厳しい状態ではあった。そんな中、A ドライバーの金井は、すぐコースインせず、しっかりクリアラップの取れるポジションを確保してから走行を開始。間もなくアタックに入り、まずは 2 分 12 秒 770 に、続いてのアタックでは 2 分 12 秒 760 と、わずかながらも短縮してピットに戻る。その結果、金井は 2 番手に。

続くBドライバー予選に臨んだ猪爪も、少々タイミングを遅らせてコースイン。まずは2分13秒088を記録し、次の周には2分12秒599にまで短縮して、その時点でトップに立つ。しかしながら、直後に上回ってきた車両もあったことから2番手となり、合算タイムにおいても「TRES☆TiR☆NATS ロードスター」は2番手につけることとなった。

なお、Cドライバー予選においては、ユーズタイヤを装着して決勝モードで走行した岡原は2分15秒567を記して5番手につけていた。

金井亮忠

実はアクセルのハーフスロットルがうまく効かず、いきなり全閉や全開になってしまうトラブルを抱えての走行でした。それでも全開域ではちゃんとエンジンが吹けたので、それなりのタイムを出せました。タレレバはあるのですが、木曜日からセットアップしてきた車はすごく良い動きになってきているので、決勝は落ち着いて行けば、また良い結果が得られると思います。

猪爪杏奈

私の時はもうトラブルは解消していて、クルマ自体に問題はありませんでした。ベストを尽くして走っていたのですが、(トップの2分)12秒2には届かなかったなって思うので、今から運転の解析をする予定です。いいレースができるように頑張ります。

決勝レース

今回の決勝レースは全クラス混走で、5時間で競われる。その間に義務づけられたピットストップは3回だ。さて、土曜日までは酷暑の中での走行だったが、日曜日になると一転し、早朝まで降り続いていた雨が路面に残っていた。

早朝に行われたウォームアップの頃には雨はやんでいて、時間の経過とともに路面から水しぶきが上がらなくなるが、代わりにサーキット全体が霧で覆われるようになる。決勝レースのスタート進行の始まりは小雨がパラついている状態であった。

今回もスタートを担当するのは金井。レースは定刻どおり開始され、スタート直後の1コーナーで3番手の車両に横に並ばれこされたものの、「TRES☆TiR☆NATS ロードスター」はしっかりポジションをキープ。だが、序盤から無益な戦いを避けたこともあり、2周目には4番手に。その直後に視界不良を理由とする、セーフティーカー(SC)ランが行われることになる。これが7周目まで実施され、いざ再開となったはずが、たった1周でまたSCが導入される。より霧は濃くなっていたことから、結局スタートから42分経過後に赤旗が出されて、レースは中断される。

それでも1時間ほど経過すると、霧はきれいに晴れてSCの先導によって再開されることに。路面もほぼ乾いていたことから、「TRES☆TiR☆NATS ロードスター」はピットイン。ドライタイヤに交換し、ドライバーは金井のまま。この間に順位を落とすこととなるが、金井はオーバーテイクを重ねて23周目には4番手に復帰。その後、繰り広げられた激しい3番手争いは、抜けなかったとはいえ観客の視線を釘付けにしていた。

先行する車両の加速性能が高く抜くことが出来ない為2回目のピットストップを早める形で39周目に金井をコクピットに収めたまま、給油のみのピットインでコースに送り出すとポジションは4番手のまま復帰する。ピットタイミングの違いもあり、やがて金井は2番手に浮上し、トップは有視界ながら無理せず機の熟すのを待つ。

そして、ゴールまで残り1時間となって間もなく、前を行く車両がピットに入ったことから、「TRES☆TiR☆NATS ロードスター」は待望のトップに浮上！3周後となる75周目に猪爪と交代し、タイヤはフロントのみ交換する。だが、この間に3番手に後退したばかりか、明らかに走りは苦しそう。なんとか表彰台には……との思いも空しく、残り2周となる95周目に抜かれ、結果4位でフィニッシュとなった。

優勝も視野に入っていただけに、悔しいリザルトとなってしまったが、うつむいてはいられない。次のレースは9月18~19日に鈴鹿サーキットで行われる。そう、山野哲也を助っ人として迎える一戦だ。この大勝負にすべてをかけることとなる。





金井亮忠

前半、ヘビーウェット方向に振ったのが裏目に出てしまいましたが、赤旗再開後はすぐドライタイヤに換えて作戦も立て直し、ロングステントを担当することになりました。前車をなかなか抜くことができず厳しい場面もありましたが何とかトップでバトンを渡せたのは良かったと思います。交代直前ではリヤのグリップは余裕があり残りのレース時間も少なかったので、フロントタイヤのみ交換という勝負に出ましたが、リヤタイヤを換えていない分オーバーステアが強くなってしまったみたいです。次こそは優勝できるよう頑張ります。

猪爪杏奈

1番を獲る戦略に勝負をかけて、チームみんなの期待を背負いコースに出ましたが、車の挙動を抑えきれず簡単に抜かれてしまい、最後までペースを上げられず不甲斐ない結果になりチームに申し訳ない気持ちです。気持ちを入れ替えて、次のレースも諦めず頑張ります。

岡原達也

練習時はずっと自分はユーズドで走っていたのでそれなりのペースで走れると思っていたのですが、展開的にこうなったので自分の出番は無でした。

猪爪俊之監督

リヤタイヤは赤旗リスタート後にスリックに交換した後チェッカーまでだったから、最後ペースが上げられませんでした。1位が見えていたからギャンブルしたけど、ちょっと最後はジリ貧になってしまいました。次戦の鈴鹿は山野選手の力を借りて、初参戦の鈴鹿でいきなりチーム初優勝目指します。